

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号)	提案機関名	湘南地区農政事務所
81		
要望問題	ワルナスビ等防除困難な外来雑草に対する除草技術の開発	
要望問題の内容 [背景・内容・対象地域及び規模 (面積、数量等)]	<p><背景> 現在、輸入乾燥飼料等を通じて海外から外来雑草の侵入が問題となっているが、その中でもワルナスビなど防除技術が無いに等しい外来雑草が自給飼料を作付けしている酪農家に大きな被害を与えている。そこでその有効な防除技術の検討を図りたい。</p> <p><内容> ○ワルナスビ等防除困難な外来雑草に対する防除技術の開発。</p> <p><対象地域> 県下一円</p>	
解決希望年限	①1年以内 ②2~3年以内 ③4~5年以内 ④5~10年以内	
研究対応区分	①研究所対応 ②委託研究 ③共同研究 ④その他	
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所(②根府川試験場③三浦試験場④津久井試験場) ⑤畜産研究所⑥水産総合研究所(⑦内水面試験場⑧相模湾試験場)	

*ここから下の欄は、回答者が記入して下さい。

回答機関名	畜産研究所
部 署	畜産工学部
対応区分	①実施②実施中③継続検討④実施済⑤調査指導対応⑥現地対応⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	
対応の内容等	<p>外来雑草の防除については、自給飼料対策シリーズ32巻「外来雑草の特性と防除」(平成6年3月)および37巻「外来雑草の特性と防除Ⅱ」(平成10年3月)に既存の研究成果をふまえ触れられています。</p> <p>なお、とうもろこし畑の場合、ワルナスビに関しましては選択性の除草剤がないため、現在は防除法が確立しておりません。防除法に関しては、農薬の登録状況、新薬の開発等の状況を見ながら対応したいと思います。成熟して地下茎を張ると根絶が困難となるので、現状では早期防除を心がけ、発見次第抜きとるようにして下さい。</p> <p>外来雑草は、飼料に混入した種子が牛糞をとおして飼料畑へ進入してきます。よって、その防除法の一つとして、牛糞を適切な発酵処理を行い、その種子を発酵温度で死滅させることにより雑草の蔓延を防ぐことができます。</p>
解決決定年限	①1年以内 ②2~3年以内 ③4~5年以内 ④5~10年以内
備考	